

第 117 回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 鈴木敦)では、「第 117 回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

【資料 1】 2025 年度 4 月～6 月の輸送概況について p. 1

【資料 2】 利用促進及び地域との連携について p. 2～4

※お問い合わせにつきましては、本日 17 時 00 分まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

2025年度4月～6月の輸送概況について

◇ 輸送人員

【単位：人/日】

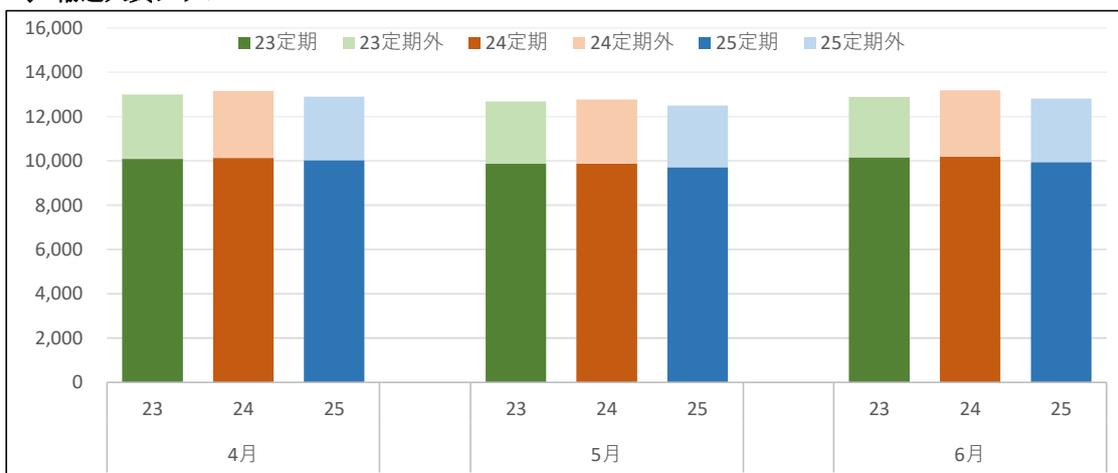
	2025年度	2024年度	増減	対比	2023年度	増減	対比
定期	9,895	10,069	△ 174	98%	10,045	△ 150	99%
通勤	3,941	3,994	△ 53	99%	3,933	8	100%
通学	5,954	6,075	△ 121	98%	6,112	△ 158	97%
定期外	2,845	2,975	△ 130	96%	2,815	30	101%
合計	12,740	13,044	△ 304	98%	12,860	△ 120	99%

◇ 旅客運輸収入

【単位：百万円】

	2025年度	2024年度	増減	対比	2023年度	増減	対比
定期	141	133	8	106%	132	9	107%
通勤	69	68	1	101%	66	3	105%
通学	72	65	7	111%	66	6	109%
定期外	130	132	△ 2	98%	128	2	102%
合計	271	265	6	102%	260	11	104%

◇ 輸送人員グラフ



◇ 概況

【定期】

輸送人員については、2024年同期比で98%と若干減少したものの、旅客運輸収入は2024年同期比で106%となった。

通勤定期は、近距離区間の利用が好調であった一方で、中・長距離区間の利用が減少した等により、旅客運輸収入は2024年同期比101%となった。

通学定期は、近距離区間の利用で減少が見られたものの、中・長距離区間の利用が維持されたため、旅客運輸収入は2024年同期比111%となった。

【定期外】

輸送人員については2024年同期比で96%、旅客運輸収入は2024年同期比で98%となった。

企画乗車券の利用が伸び悩んでいるものの、普通券収入は伸びている。

利用促進及び地域との連携について（4月～8月）

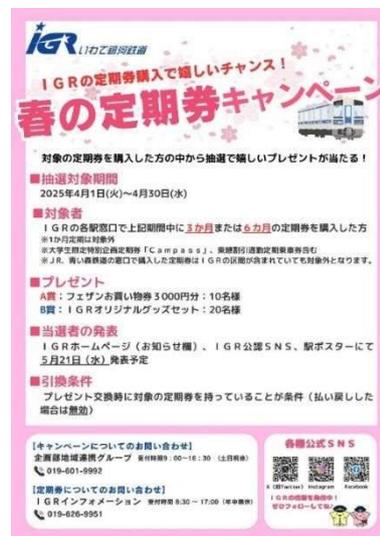
1 利用促進の取組

(1) 定期券の利用促進

当社線内の指定駅（盛岡、青山、滝沢、目時）まで1学年の間利用できる大学、短大生等を対象とした特別企画定期券「Campass」や列車とバスがセットになった乗継割引定期券を販売しました。

沿線の大学・高校を通じて新入生に通学定期券の案内を配布し、大学・高校に出向いて定期券の出張販売を行いました。

新生活シーズンに合わせて、長期間の定期券の購入を促進するため、駅窓口で定期券を購入した方を対象に、I G Rオリジナルグッズやフェザンお買物券が抽選で当たる「春の定期券キャンペーン」を実施しました。



キャンペーンポスター画像

(2) 定期外の利用促進

小中学生の夏休みの利用促進を図るため、沿線の小中学校に「小学生 100 円きっぷ」「中学生往復半額きっぷ」のチラシを配布しました。

地域を知ってもらい、列車の利用につなげるため、奥州街道や南部藩の城跡などのガイド付き史跡巡りや、折爪岳のヒメボタルをはじめとした自然体験等の着地型ツアー、鉄道ファン向けに I G R 7000 系車両と青い森鉄道 701 系車両の連結を復活させたツアーや、盛岡から青森まで約 200km を深夜に走行し夜行列車の雰囲気を経験できるツアー、世界遺産御所野遺跡と連携し小学生の夏休みの自由研究を応援する企画ツアー、ラジオを聞きながら金田一温泉エリアでのウォーキングを楽しむイベントに合わせたツアーなどを実施しました。

北いわてエリアのテーマやストーリーに基づく「こだわりの旅」を企画し全国からの集客につなげたことや、北いわてを代表する漆や農林畜産業を観光素材として扱い関係人口の創出につなげたこと等の取組が評価され、東北地域における観光産業の活性化に尽力・貢献をした団体や個人に授与される「フェニックスアワード 2024」を本年4月に受賞しました。



銀河鉄道観光ツアー写真

2 地域連携・イベント

沿線の小学生・幼稚園・保育所との鉄道安全教室や駅の七夕飾りの実施を通じて、児童や園児に鉄道に親んでもらう機会を創出し、地域との交流を図りました。

ミニ電車の運行やグッズ販売など、沿線地域のイベント出店に加え、県・沿線市町と連携し、初めて県外（青森県・八戸市）での自社主催PRイベントを開催し、当社の知名度向上を図ると共に、沿線地域のPRも実施しました。



沿線の小学校や保育所などとの交流



県内外イベントでのPR

3 9月以降の取組

9月から11月までの3か月間、岩手県がJR東日本の「重点共創エリア」に指定されたことに合わせて、県北地域の交流人口を拡大するため、様々な取組を実施します。

盛岡へ来た観光客を沿線地域に誘客することを目的とし、スクラッチを削るまで行き先の分からないワクワクと駅周辺での新発見をお楽しみいただける格安な「IGRでGO! でたところきっぷ」を9月1日より発売しています。

9月28日にテレビでお馴染みの鉄道写真家の中井精也さんを迎えて「ゆる鉄トークイベント」を一戸町で開催し、県内外より多くのお客さまを誘客しました。

10月4日(土)、5日(日)に盛岡市で開催される「いわて酒ノ宴 2025in もりおか」への誘客を促進し、当社線の利用につなげるため、駅構内の特別ディスプレイやSNSを活用したキャンペーンなど、PR企画を実施しています。

今年の春から本格的に生産が開始された県オリジナル水稲新品種「白銀のひかり」と沿線地域の食材をPRする企画列車を実施します。

重点共創エリア期間を中心に開催される県内外のイベントに参加し、県や沿線市町等と連携しながら当社と沿線地域のPRを実施していきます。



9月以降の取組